

未来を生きる力を身に付けた、たくましい子の育成

《令和6年度前期との比較》

※評価方法は裏面に記載

＜視点1＞【安全・安心の保障】														
具体的な取組		2学期・取組の重点…目標数値・改善策		アンケート結果						自己評価	成果と課題及び分析		改善策・最終評価での目標数値	
◇いじめ・不登校への取組推進 ・未然防止(居場所づくり・絆づくり)の取組推進 ・アンケート調査の計画的実施 ・児童理解の会での情報共有と共通行動 ・いじめ対策チームの日常化 ・迅速かつ組織的な初期対応 ◇安全教育の推進 ・心のケアの計画的な実施 ・SCとの連携・効果的な活用 ・登下校時の安全指導及び危機の予測と回避 ・計画的かつ実体験を伴う避難訓練の実施 ・危機管理マニュアルの充実 ・食物アレルギーへの適切な対応	【目標数値:児童「自分にはよいところがある」A評価100%】 ●・友達よいところ見つけをすることで、自分だけでは気づかない良さに気づかせる場面を設定したり、自信を持って自分のよさを他者に伝えられるようにするために、100字作文で自身の良さについて書く機会を設けたりした。	児童	学校は楽しい。	100%	➡	a	4	A ↓ A		○全項目において肯定的な回答が100%となっている。 △自分にはよいところがあると肯定的に答えた児童は100%であったが、A評価は82%(+11%)にとどまった。 →今後も友達よいところ見つけをして、自分だけでは気づかない良さに気づかせしたり、自分の良さについて書かせたりする機会を継続する。【川崎】				
		保護者	お子さんは、「楽しそうに学校に行っている」と思いますか。	100%	➡	a	4							
		児童	困っている友だちがいたら、助けてあげようとしている。	100%	➡	a	4							
		児童	自分にはよいところがある。	100%	➡	a	4							
		保護者	学校は、親切・思いやりの心を育てようとしていると思いますか。	100%	➡	a	4							
		児童	学校のきまりを守って、生活している。	100%	➡	a	4							
		教員	児童が学校のきまりを守り、安全に生活できるよう指導している。	100%	➡	a	4							
		児童	みんなで協力して取り組み、うれしかったことがある。	100%	➡	a	4							
		保護者	学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいると思いますか。	100%	➡	a	4							
			先生は、子ども達のことをよく理解しようとしていると思いますか。	100%	➡	a	4							
		教員	児童同士のよりよい人間関係づくり(いじめ・不登校の未然防止)に努めている。	100%	➡	a	4							
			児童の心のケアを最優先に、小さな変化に気づいたときはすぐ行動している。	100%	➡	a	4							
		保護者	学校は、児童の安全を守るために努力していると思いますか。	100%	➡	a	4							
		教員	定期的に危機管理マニュアルを確認して行動している。	100%	➡	a	4							

＜視点2＞【学力の保障】													
具体的な取組		2学期・取組の重点…目標数値・改善策		アンケート結果					自己評価	成果と課題及び分析			改善策・最終評価での目標数値
<div>◊学習に向かう基本の定着</div> <div>・授業のルールの定着(学習用具・挨拶・着ベル等)</div> <div>・基盤づくりの取組(挙手・反応・ノートづくり)</div> <div>◊対話的で深い学びへの授業改善</div> <div>・学習量のあるテンポのよい授業実践</div> <div>・正しい表現力をつけるための授業改善</div> <div>・適切な発問・指示</div> <div>・話し合い活動の工夫</div> <div>・外部講師を招いての研修</div> <div>◊ICT機器の活用</div> <div>・積極的な一人一台端末の使用</div> <div>・ICT機器の効果的・効率的な活用</div> <div>◊学習習慣づくり</div> <div>・家庭学習習慣づくりの取組</div> <div>・自学学習の奨励</div> <div>・補充学習等個別指導の充実</div>	【目標数値:児童「授業の内容はよくわかる。」A評価100% 職員「児童に説明・記述させる授業への改善をすすめている」100%】 ●・学校研究としての具体的取組を改善し全職員で継続的に実践するとともに、全教科において、説明・記述させる授業への具体的取組をすすめた。	児童	授業の内容はよくわかる。	100%	➡	a	4	A ↓ A	○「授業の内容がよくわかる」でA評価と回答した児童の割合が82%で、A評価の児童の割合が増加している。 →授業でつきたい力を明確にし、確実に児童に身に付けさせる授業づくりを明確にできた。 ○児童に説明・記述させる授業への改善を進めていると回答した職員の割合が増加した。 →算数科だけでなく、他教科においても、説明・記述させる授業づくりの取組を具現化し行うことができた。	○「授業の内容がよくわかる」でA評価と回答した児童の割合が82%で、A評価の児童の割合が増加している。 →家庭学習がんばろう週間では、お互いの自学ノートを見合い、学び合うことができた。しかし、取組内容に個人差があり、個に応じた内容や量を指導する。【梅木】 △保護者「お子さんは早寝・早起きをしていますか」の回答がー34%と激減している。 →地震後、送りでの登校が定着し、就寝・起床時間が遅くなっているのではないかな。	【目標数値:児童「授業の内容はよくわかる。」A評価100%】 ●・学校研究としての具体的取組を改善し、全職員で継続的に実践するとともに、全教科において説明・記述させる授業への具体的取組をすすめる。	課題① 学力向上【道下】 →・全教科での具体的取組の推進	

<視点3>【成長の保障】

具体的な取組	2学期・取組の重点…目標数値・改善策	アンケート結果					自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値				
◇ 体力・運動能力の向上 ・体力アップ1校1プランの推進 ・スポチャレいしかわの取組推進 ◇ キャリア教育の充実 ・将来の夢や希望を語る活動 ・働くことの喜びを知る活動 ◇ 認め合える集団づくりの取組 ・道徳教育及び個に応じた特別支援体制の充実 ・主体的な児童会活動の取組 ・縦割り班活動の充実 ◇ 読書活動の推進 ・家庭読書活動の推進 ・読書ボランティアとの連携 ◇ SDGsの視点での体験学習の充実 ・地域の人・もの・ことを学ぶ(本物に触れる)機会の充実 ・まちの先生の活用	【目標数値:教員「お子さんには、夢がありますか」90%】 ●・キャリア教育年間指導計画を再確認し必要な見直しを図り、計画に沿った指導をすすめた。 課題④ キャリア教育の推進 →・キャリア教育 計画的な取組	児童	自分には夢がある。	100%	➡	a	4	A ↓ B	○前回課題であった保護者「お子さんには、夢がありますか。」の回答が微増(+3%)した。 →学校便りでの「児童の夢紹介」が有効だったのではないかと、 △教員「将来の夢や希望を語る活動に取り組んでいる。」の回答が減少(-12%)した。 →どの先生も授業の中で「希望を語る活動」は行っているはず。授業者がいかに意識した指導を行うかが大切。 ○児童は、友達や先生から認められていると感じている。 ○挨拶に対しての自己評価・他者評価がともに高い。 →現在の取組を継続して取り組んでいく。【梅木】	【目標数値:保護者「お子さんには、夢がありますか」100%】 ●・教員がキャリア教育年間指導計画を再確認し、「日頃の指導の中でキャリア教育を行っている」という意識を持ち、計画に沿って指導をすすめる。 課題③ キャリア教育の推進【梅木】 →・重点に沿った計画的な取組			
		保護者	お子さんには、夢がありますか。	82%	➡	b	3						
		教員	将来の夢や希望を語る活動に取り組んでいる。	88%	↓	b	3						
		児童	学校では、友だち同士でお互いのがんばりを認め合う場面がある。	100%	➡	a	4						
			先生はがんばったことをほめたり、認めたりしてくれる。	100%	➡	a	4						
			家族や地域の人に、自分からすすんであいさつをしている。	100%	➡	a	4						
		保護者	お子さんは、すすんで挨拶ができていますか。	100%	➡	a	4						
		児童	地域のことについて、いろいろなことを学んでいる。	100%	➡	a	4						
			学校は、地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいると思いますか。	100%	➡	a	4						
			教員	まちの先生を積極的に活用している。	67%	↓	d				1		
3.5													
<視点4>【教職員にとって働きがいのある職場づくり】													
具体的な取組	2学期・取組の重点…目標数値・改善策	アンケート結果					自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値				
・個々のライフステージに合わせた受講の奨励 ・全職員での若手早期育成プログラムの計画的実践 ・業務改善の取組推進 定時退校日の実施・計画的な年休行使 一人一役での分掌・ワンペーパーでの起案 校務支援システムの活用		教員	本校の教育目標を具現化して、教育活動に取り組んでいる。	100%	➡	a	4	B ↓ A	○上記2つの肯定的回答の割合が100%である。 →学力向上プランをはじめ、全職員が教育目標の具現化に取り組んでいる。日常の業務の中で、教員同士が授業や生徒指導などについて話し合える雰囲気がある。 △午後6時30分を目安に退校できていない教員がいる。 →退校時刻を意識した業務への改善をすすめる。【教頭】				
			教師としての力量が高まるように努めている。	100%	➡	a	4						
			業務の効率化をすすめ、午後6時30分を目安に退校している。	89%	↑	b	3						
3.7													
<視点5>【保護者・地域から信頼される学校づくり】													
具体的な取組	2学期・取組の重点…目標数値・改善策	アンケート結果					自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値				
・積極的な情報発信と開示による保護者との信頼関係の構築 ・コミュニティスクール制度を生かした「地域とともにある学校」への転換 ・公民館や地区行事と連動し、地域のよさを実感できる学習活動の企画と実施		保護者	学校は、保護者との連絡を密にしていると思いますか。	100%	➡	a	4	A ↓ A	○保護者は「学校と保護者との連絡は密にしている」「学校からの情報発信は十分である」の割合は、いずれも100%。 △教員の「地域・保護者への積極的情報発信」の割合は89%(-11%)。 →定期的に学級通信等の発行に取り組む。【各担任】				
			学校からの各種便りやホームページでの情報発信は、十分ですか。	100%	➡	a	4						
		教員	地域・保護者へ、積極的に情報発信を行っている。	89%	↓	b	3						

3.7

《アンケート集計から自己評価までの流れ》

① アンケート結果から、それぞれの項目をa～dの4段階に評価する

「そう思う」+「だいたいそう思う」が90%以上 ⇒a

「そう思う」+「だいたいそう思う」が80%以上 ⇒b

「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%以上 ⇒c

「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%未満 ⇒d

② ①の4段階の評価を、a=4 b=3 c=2 d=1とし、

③ 以下の基準で平均値から自己評価を行う

平均が3.6以上 ⇒A

平均が3.0～3.5 ⇒B

平均が2.4～2.9 ⇒C

平均が2.3未満 ⇒D



5%以上増えている



10%以上増えている



5%以上減っている



10%以上減っている

※令和5年度後期との比較

【保護者から】

- ・いつも熱心に見ていただき、ありがとうございます。先生方も心身ともにご自愛下さい。(2年)
- ・二学期、楽しく通学することができて大変嬉しかったです。先生方、ありがとうございました。(4年)